

はじめに

北海道旭川市南西部に位置する西神楽地域は、旭川空港近郊の田園地帯である。全国的にも有名な美瑛町に隣接し、近年人気の旭山動物園まで車で15分、富良野市も車で1時間圏にあり、美しい景観や自然、観光地に恵まれている。旭川市の中心市街地までは車で20分程度、中心市街地には医療・福祉施設やデパート等商業施設など、生活に便利な施設が集積しており、田園環境と都市的利便性の両方を楽しめる地域である。



地域の課題

近年、少子高齢化が急速に進み、西神楽の四つの地区（瑞穂・中央・聖和・千代ヶ岡）の人口は、平成10年に約4,500人であったが平成25年には約3,500人と、15年間で約1,000人も減少した。人口減少は65歳以下の流出によるもので、西神楽地域の高齢人口指数は75%と旭川市全体の37%に比べて著しく高い。冬季集住を実施する聖和地区では、世帯数197世帯で65歳以上の高齢者が217人に上る。この中で居住先の除雪など積雪寒冷期の労働負担、病院への通院や買い物などに必要な足の確保の困難さなどが要因で、農村からの人口流出が生じ、地域の活力低下が急速に進行している。

活動の内容

人口高齢化に伴う諸課題や、農村に滞在して農作業を体験し、安全な食を確保したいなど、都市住民の意向に対応すべく、都市と農村の連携を見据えた冬季集住や夏季滞在のための実態調査、地域住民の意向調査、当地域の土地利用状況を考慮し、新たな居住形態を踏まえた農村整備のあり方、農村住民の冬季集住と都市住民の二地域居住を組み合わせた「新たな地域共同体」のあり方を提案する。

活動の成果

冬季集住の取り組みでは、冬季集住の試行に参加した全48名の方々から、除雪からの解放、食事の提供、共同生活による安心感など、一人暮らしより便利で、離れて住んでいる子供と家族も安心してくれるという感想が多く寄せられ、ほぼ全員が満足という結果となり、この取り組みが当地域の高齢者

に大きな安心感をもたらした。また、当初想定していなかったマスコミ各社の取材により、本事業内容が短期間にも関わらず地域に周知され、浸透したことが大きかった。これにより、地域内企業からの集住施設の除雪支援や、集住施設近隣住民からの様々な支援（副食の提供や施設訪問支援）を受けるなど、互助の高まりがあったことは大きな成果であった。



今後の課題・展望

冬季集住の今後の利用意向については、次年度も是非入居したいという意見が多かった。但し、12月～3月の長期滞在となると、自宅を長期に離れても良い環境づくりが課題に挙がっている。また、集住施設の課題として入居者全員分のベッドの提供と、女性の入居者からは病院や買い物など車の送迎が必要であるとの意見が挙がっている。

冬季集住の取組では、通院や買い物など、特に女性の足の確保が大切であることから、移動サポートも含めた試行を検討する必要がある。また、夏期滞在者も移動手段を必要とすることから、カーシェアリングやレンタカーの割引、レンタサイクルなどモビリティ確保と組み合わせた夏季滞在の試行の検討が必要である。冬季集住の反響が高く、将来の理想的な施設の形態が示されたが、それまでの期間のつなぎとして、各地域数箇所の空き家を利用した集住施設の必要性を実感した。

